

「農地集積への取組」

京都府 宇治市農業委員会

1 農業委員会の体制と市町村行政との連携状況

○ 農業委員：	14人
○ 農地利用最適化推進委員：	4人
○ 事務局職員：	5人
○ 市町村行政との連携状況：	
地域計画調整会議に市担当者、事務局、現地推進役等が出席	



伊賀市農業委員会との意見交換

2 地区の特徴、状況、課題

（市の概要）宇治市は、京都盆地の東南部に位置し、北西部は巨椋池干拓地、南西から中央部は市街地であり、東部は丘陵地及び山間地となっている。

（市の課題）北西部は入り作も多く協議が進まず、山間部では担い手減少により農地の集積が進まない。



3 委員による継続した話し合いの取組内容

- 遊休農地の早期発見に努め、農地を適正管理する必要がある。
- 担い手の減少や高齢化が進み、優良な農地の維持・再生をするため、地域で連携して後継者を育成する必要がある。
- 将来的な営農の持続のため、高収益作物の販売や他産業との協働により効果的な経営を図る必要がある。
- 担い手への農地の集積を進めることにより、遊休農地の発生を未然に防ぐ必要がある。

4 成果（京力農場プランの目標実現に向けた取組内容）

- 京力農場プラン（人・農地プラン）の実質化の取組
- 令和2年度では、農地地図を広げ、農地の現状と課題について話し合った。
- 令和3・4年度では、地域の個別課題について話し合い、加えて、今後も保全する農地について話し合った。
- 令和5年度では、宇治市より農地集積率の高い伊賀市農業委員会と意見交換を行い、集積率向上策を話し合った。

※事例候補（地区連絡会議の単位が望ましい）の選定や作成にあたっては、農業会議の現地推進役と相談してください